

インドネシアの伝統薬ジャムウ



農学国際専攻
国際情報農学研究室
あら きてつ や
荒木徹也
准教授

インドネシアには、アーユルヴェーダに由来するジャムウと呼ばれる伝統薬があります。

漢方薬にも似たジャムウが、インドネシアの農村地域でどう利用されているのかを注意深く観察すると、現代の日本の中山間地域にも当てはまる問題群が浮かび上がってきました。

東南アジアで最大の人口を有する島嶼国家であるインドネシアでは、古くからジャムウと呼ばれるアーユルヴェーダに由来する伝統薬が人々の間で利用されてきました。一方で、インドネシアは近年の経済発展が著しく、2014年にアジア最大規模の国民皆保険制度を導入しました。こうした社会経済的な変化は、農村地域の人々が享受する医療サービスや健康状態にも何らかの影響を及ぼすものと考えられます。

そこで、私たちはインドネシア・ボゴール農科大学の研究者らとともに、西ジャワ州の農村地域におけるジャムウの利用状況に関するフィールドワークを実施しました。その結果、調査した村では、現在もジャムウは村人の健康維持に役立っており、とりわけ女性の産後の健康回復に大きく寄与していることが分かってきました。

一方で、現地でジャムウ師と呼ばれる伝統医療従事者は後継者不足という課題に直面しています。さらに、外国企業による土地の買い占めが村内で相次ぎ、自生する薬用植物を採取することが徐々に困難になりつつあります。このままの状況が続けば、近い将来、村内でのジャムウの原料となる植物の入手が不可能となるかもしれません。近代医療へのアクセスが限られており、かつジャムウの利用者が多い農村地域では、持続可能なジャムウの生産が今後の大きな課題となっています。近代化の進行が農村に住む人々に及ぼす影響という点では、現代



インドネシアのジャムウ売り。複数のジャムウ原料を調合する。その処方では代々母から1人の娘にのみ世襲される。

の日本の多くの中山間地域にも当てはまる問題であるといえます。



粉末ジャムウの一例(写真は風邪薬)



現地語でボシャンドウと呼ばれるインドネシア農村地域の保健活動施設。主に身体計測などを実施する。



現地語でワルンと呼ばれる小規模な商店では、生活用品や食料品だけではなく、粉末ジャムウをはじめとする市販薬も販売されている。

教えて! Q&A

ジャムウ

古代インドの予防医学であるアーユルヴェーダに由来するインドネシアの伝統薬とされており、ユネスコの世界遺産であるボロブドゥール寺院遺跡群の壁画にもジャムウを調合の様子が残されています。20世紀の前半にはインドネシア国内で粉末のジャムウが販売されるようになり、現在では薬用のみならず健康食品や化粧品等としても利用されています。

インドネシアの国民皆保険制度

日本では1961年に導入された国民皆保険制度ですが、インドネシアでは2014年にアジア最大規模の国民皆保険制度として導入を開始し、2019年までに全国民の加入を達成することを政策目標としています。一方で、どのようにして国民皆保険制度に非正規労働者を取り込むのか、また加入率100%を達成したとして、その後の財源の確保や医療インフラの整備をどう進めてゆくのかがインドネシア政府の今後の課題となっています。